



No16 2011・8・1
連絡先 〒 334-0001
鳩ヶ谷市桜町 6-13-16
森 克彦 048-283-3183
清水 こう 043-291-7293
白鳥 由一 03-5606-3715

ハイウェイ九条の会ホームページ <http://www006.upp.so-net.ne.jp/jh7600/>

災害復旧ボランティア活動に参加して

栃木県那須塩原市 印南 敏夫

6/3, 4の両日、いわき市災害復旧ボランティアセンター(VC)を訪れ、ボランティア活動に参加してきました。安全底のゴム長靴、皮手や厚手のゴム手袋、合羽それに弁当をもって午前9時頃、いわき市中心部にあるVCに到着。受付、オリエンテーションの後、「マッチング」(依頼の作業内容と参加者の意向確認)。当日は、「学校の体育館の床掃除に20人」、「1.8メートルくらいの深さの側溝の泥のかき出し作業に5人」、「子供の遊び相手に2人」などいろいろ。

私は、7人の班編成で四倉地区に向かいました。いわき市四倉町はいわき市の北部の海岸線で、福島第一原発から約40キロの場所。そこで31年続いた焼き肉屋と精肉屋を営む店舗兼住宅。壁の約1.5メートルの高さのところに津波の跡が付いていました。その家の海側には他人の家があったのでそれが緩衝材となり、建物自体はそれほどの破損はなかったようです。店内の冷蔵庫や商品棚を移動させながら、また、小あがりの床板をはがして1~2cm位積もっている海砂を箒やスコップなどで丁寧にかき集め、土のうに20キロくらいなるまで詰め込んで、所定の場所に運び出すという作業でした。それほど異臭はありませんでした。後日、消石灰で消毒することでした。チームを組んだ内二人は神奈川県から、一人は水戸からのそれぞれ個人参加。リーダーは地元の



いわき市平薄磯地区

三十代後半の青年でしたが、彼は震災前から失業中で、ハローワークに通いながらのボランティア参加とのことでした。やはり、地元の復興を願って一生懸命という感じでした。

二日目もやはり四倉地区で、今度は小さな水産加工場とのことでした。津波で建物は流され、基礎だけが残っていました。ここもひたすら、海砂をかき集め、土のうに詰めて運び出すという仕事。再建を目指す社長の心意気に、こちらも気合が入ります。何しろ、これほどの被害を受けながら、また、ここで再生を図ろうというのですから。ここでは10人以上のチームが必要でしたが、人員不足で午前中は我々4人。午後から6人が補充され何とか一通り片付けましたが、暑さもありちょっとハードでした。

初日はやっと予約がとれたいわき市内のビジネスホテルに一泊しました。地元の人に聞くと、やはり宿泊は福島原発の作業員が相当多いとのことでした。ボランティア活動は4時には終了する決まりということですので、初日の終了後、美空ひばりの「みだれ髪」に出てくる「塩屋の岬」に行ってみました。岬に面して広がる薄磯集落は壊滅状態でした。見渡す限り大きく破壊された建物の残骸とガレキの山でした。ここにはほとんどボランティアのオーダーがないということです。

ボランティア活動を通じて、被災地の一人ひとりのご苦労と、再建へのがんばりを目の当たりにすることができました。これから月1、2回を目標にボランティア参加したいと思っています。

政府は、被災地の人々のところをくみ取って、被災者一人ひとりの生活・生業の再建を応援する復旧・復興策を考えてもらいたいものです。また、地震列島にある原発に「安全」なものなどひとつもありません。早期の原発からの撤退を要求したい。

東日本高速の社員の中にも自宅を津波で流された方、津波で実家を流されたうえ原発事故で避難生活を余儀なくされた実家の親族の世話をしている方、放射能汚染の拡大と風評被害で日常生活が困難な地域から両親らを呼び寄せている方などがいるようです。

被災地の復興と原発事故の早期収束を心から願っています。

津波で家を流出し、原発 事故で故郷を追いだされ」

千葉県千葉市 根本 守

我が一族の被災避難の状況

私の故郷は、福島県南相馬市で、兄妹、甥、姪など8家族が住んでいる。東日本大震災による被災状況は、家を丸ごと流出2、大破1、がれき流入2、家屋の損傷や器物の落下損壊は全8戸。幸いにも血縁者には死者、行方不明者は無かったが、兄嫁や甥の方の血縁者には死者、行方不明者がある。

原発事故では、福島第一原発から20 km以内の警戒区域にあたり、皆避難させられ、宮城、福島、茨城、埼玉、神奈川の、息子や嫁の家で、温泉ホテルや廃校舎で、更に仮設住宅に移って、生活している。損壊した家屋、家財、散在しているがれき、海水で湛水している田畑、倒れた墓など、放ったままで3か月余りの避難生活に耐えている。いつ戻れるか、未だ予測が立っていない。

原子力発電所とのかかわり

南相馬市には少しだが、福島原発で働いているひとはいる。実家の甥は、福島第一原発で、施設保守（建物や敷地）の仕事についていた。小さな会社が、安定した会社で、報酬もまずまずのようであった。甥の身体は放射能に侵されていると聞いていたが、仕事に支障があるほどではなかった。今は、宮城県の廃校舎で避難生活を送っている。姪の夫は、東海村の原子力研究所に勤務していた。南相馬市は原発交付金を受けていないと聞いているが、農免道路などがよく整備されている。

原発事故は人災か

原発事故は、第一の原因は、未曾有の大津波によってひき起こされたもので、自然災害であると思う。ここ数年、高い気温が続くこと、未曾有の降雨、降雨量による大洪水、都市内氾濫などがたびたび起っていること、また過去に経験したこともない大竜巻など、“巨大なもの”が襲っている。設計をはるかに超える未曾有の大津波は、あっさりと防波堤を越えて発電所内に入り込み、所内の施設を破壊し、送電設備、自家発電設備を破壊した。炉心や燃料棒の冷却ができなくなり、高熱で水素爆発が起り、燃料棒がメルトダウンし、あたりに放射能をまき散らした、と報じられた。IAEAの調査報告書では、津波の想定高が小さかった、複数基の事故に対する対策が不十分であった、と指摘している。

では、安全管理・危機管理の技術や態勢はどうだった

のか。訓練は行われていたのか。自家発電装置も破壊して、全く電気が使えなくなったときの対応策ができていなかったのではなからうか。何か、場当たりに、試行錯誤的に動いているように見えてならない。地震発生後3か月経った今も、事故の収束が、避難解除の展望がはっきりしていない。これは正しく人災だと思う。

事故の責任は誰にあるのか

私が学生の頃の昭和30年代前半は、発電の主力は水力であり、佐久間ダム、忠美ダム、黒部ダム等、ダムの建設が盛んで、ダム工事現場での実習に人気があり、電力会社への就職は花形であった。水力発電はクリーンではあるが、次々にダムができて、建設適地がなくなり、既設ダムが土砂で埋まってきて、次第に発電量が落ちてきている。これに替わるように、化石燃料による火力発電が隆盛になり、産業を伸ばし、豊かな暮らしを支えてきた。しかしながら、二酸化炭素による地球の温暖化、温暖化による異常気象が問題になり、一方、化石燃料にも限りがあり、となってきた。これを補うものとして、クリーンで容易に、安定的に、安価に得られる原子力発電が、新エネルギー政策として取り入れられた。フランスは原発への依存80%と高く、先進諸国は20~40%と、みな高い依存率を示し、日本も24%と、総発電量の4分の1を占めている。

事故の責任は誰にあるのか。新エネルギー政策を推進した政府自民党か。原発の設備・管理に問題のあった事業者の東電か。原発立地交付金を得て行政を進めてきた自治体か。はたまた、豊かな市民生活を享受し、原発を容認してきた住民か。私は、大なり小なり、いずれにも責任ありと思う。

原発はどうするか。

福島原発事故が起きてから、世界の方々に反原発運動が盛んになった。これから脱原発の方向へ進むのか。ドイツでは10年以内をメドに脱原発へ導くと、フランスでは、現実的には無理と主張しているが・・・

原発に代る発電、クリーンなエネルギー源として、太陽光、風力、地熱などがあるが、コスト量の安定的確保などに問題があるようだ。

福島原発事故の後に電力量が不足して計画停電が行われ、いろいろ工夫して節電し、対応しているが、盛夏を乗り切れるか。総生産量の下降、経済大国からのランク落ちもやむなし、暮らしのレベルを下げることを止むなしとするか、国民に求められている。

使用済み核燃料の処理が殆どできなくて、どんどん溜まっているようだが、これの処理が核兵器へ向くようでは、新たな問題を起す。これは決してあってはならない。世界は脱原発へと進み出ているように見られるが、一気に止めることは現実的ではない。現在ある原発の改良、危機管理の徹底につとめ、徐々に原発廃止へと移行するのが現実的であると思う。

福島原発事故に思う

日本原子力研究開発機構労働組合

花島 進

東京電力福島第1原子力発電所の事故は、大量の放射能を放出し、多くの住民の生活基盤を奪う事態に至りました。また福島県内だけでなく、広い範囲を放射能で汚染し、多くの人々を不安に陥れています。

これだけの事故ですから、マスコミはさまざまな報道をします。その中特にテレビ報道に、東京電力などが事故時の対応を誤ったから重大事態に至ったかのような報道がありますが、間違っていると考えます。

地震後の経緯の中、いろいろな対応の間違いがあったのは確かでしょう。しかし私が考える事故の本質は、巨大地震・津波や複数の機器の多重故障など、まれな事態を考慮していなかったことです。「想定外」という言葉が出てきますが、ほかのものはともかく、原子力発電に関して「想定外」は犯罪的な誤りなのであって、言い逃れの言葉に出来るものではありません。

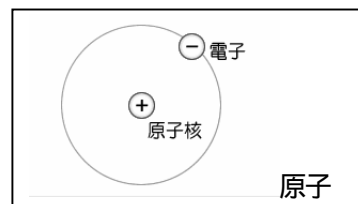
今回のような事態に至る可能性の指摘はありました。たとえば、神戸大学名誉教授の石橋克彦氏は、日本列島どこでも巨大地震の可能性があり、原発事故発生のおそれがあること、地震と原発事故が重なる原発事故への対応も思うように出来ず大変な事態が予想されると警告していました。

原発設置許可取り消しの住民訴訟では、原発の全電力喪失に対する懸念が一つの争点になっていました。このような警告・懸念はいずれも否定され、地震の規模の想定は甘くされ、全電力喪失は起こりえないこととされていました。ところが、原子力を進めてきた中心の人たちが「起こりえない」としたことが起きました。3基の原子炉が炉心溶融に至り、水素爆発も起きました。

このような見通しの甘さはどこから来たのでしょうか。「安全神話」が作られたことが問題でしょうが、ここまで原子力関係者たちが「神話」に弱かった背景には、技術を考えるときでも自分の日常的な感覚から抜け出ることが難しいからではないかと考えます。よく万が一と言いますが、多くの方は1万分の1をまったくくないことのように考えます。

私は生まれて60年間、今回のように身近の地形が変わるような地震を経験したことがありませんでした。61年目に経験したわけですが、これが頻繁に起きていれば、特に賢い人でなくとも地震に対する備えをしましょう。逆に1000年や10000年に一度の事態に備えるのは容易ではありません。大きなコストがかかることならなおさらです。

個人や家族のことだけなら、「そのときはそのとき」と何もしない選択肢もあるかもしれませんが、しかし、原



子力発電所はひとたび大事故になれば多くの人命を危険にさらし、莫大な経済的損害を与え、一地域だけでなく国家的危機を招きます。ですから非常に稀だと思えることでも考慮し、備えられていなければなりません。ところが多くの原子力関係者にはその感覚がない。そこを抜け出せない限り巨大な原発を作るべきではないと考えます。

東日本大震災に思う

東京都多摩市 柏木 幸一

被災の皆様にご心からお見舞い申し上げます。

1945年8月に広島・長崎の被爆を受け、われわれは「国際平和を誠実に希求し、武力の行使は放棄する・・・」と誓った。

この震災においては、地震と津波の原因による福島第一原発事故は二重三重の災害をもたらしている。環境汚染の観点から原発事故は、核燃料サイクルとして原爆と変わらない。両者は放射能の封じ込め方、拡散の仕方が異なるだけである。

日本では、原爆被災の10年後には電力エネルギー源として原発の設置が計画され設置された。米ソ英仏は核保有国として第二次大戦後、世界にその地位を示していた。

ウラン濃縮工場では、原発用の低濃縮ウランばかりでなく、原爆用の高濃縮ウランを作ることも可能であるという。原子炉とそこで燃やした後の燃料からプルトニウムを取り出す再処理施設があれば、原爆用のプルトニウムが手に入る。

原発の建設の始まりは、アメリカで高速増殖炉による世界初の原子力発電51年、イギリスで初の商業用原発56年、アメリカで57年、日本では63年であった。

原発事故の発生主なものは、アメリカのスリーマイル島79年、ソ連のチェルノブイリ86年、日本敦賀もんじゅ95年、イギリス73年がある。

原発施設の寿命は30~40年といわれている。廃炉となった本体及び使用済みの放射性廃棄物の処理には10年かかるという。原発による電力エネルギーの調達には後処理に重大な問題を残している。

脱原発の動きがスウェーデン(99年)、ドイツ(02年)でスタートした。

われわれがハイウェイ九条を考える会に結集し、学習を続けてきて5年をすぎた。

さらなる学習が問われている。

天災と人災

神奈川県横浜市 織方 弘道

東日本大震災は、想像を絶する強烈な地震と大津波に加えて、原発の爆発が災害の規模を大きくしただけでなく、対応が難しく複雑で一層の危険をはらんだものに変えてしまった。

原発による災害は「想定外の津波」が直接の原因だとしても、人災の要素が大きいことは疑う余地がない。しかし、地震も津波も、地球の長い歴史から見れば、自然現象の一局面であり、被災された方には酷ですが、自然の厳しさに対する人間の甘えがあったこと、つまり人災の側面もあったことの反省も必要ではないだろうか。

ちょっと歴史を遡れば、今回の規模に匹敵する大きな地震や津波の記録があったのに、災害の後になってやっと一般に知らされたことだけでも人間の油断が見て取れる。

原発事故がもたらした災害は、明らかに人間の責任が重い。原発の存在自体が人災だったと言えるかも知れない。

原発の危険性は、チェルノブイリ事故のあとも殆ど無視され続け、火力発電と較べていかに効率が高いかが強調されてきた。コストが安いというのも廃棄物処理の費用を曖昧にした上でのことだし、CO₂の排出が少なく環境に優しいというに至っては今となれば冗談にもならない。

かねてから原発の問題点が指摘されていたのに、何故、大手を振ってまかり通ったのか考えていたら、日本が大東亜戦争に突き進んだ過程と共通点があることに気がついた。

一言でいえば「長いものに巻かれる」だったと思う。政財官が一体となって原発の建設を推進し、学者も全面的にバックアップしてきた。極め付きは、ここでもマスコミが提灯持ちに徹したことだ。その結果「大政翼賛会」が出来上がった。

原発がある市町村には膨大な交付金などが支出され、贅沢な公共施設が整備された上に、固定資産税で財政も潤い雇用も増え、一見、豊かな街造りが進んだ。住民にも歓迎する空気ができて、多くの国民もその大勢に順応



福島第一
原発

して来たのではないか。

私が育った福島県三春町は、原発から約50km西にある。中間に標高1000mクラスの山々があるお陰で、放射性物質の飛散は比較的少なく、爆発直後には約1600人の避難者が学校の体育館などに溢れた。今でも約500人が町内の空き家や旅館などに滞在している状況のようだ。

戦争末期に、東京で焼け出されたり強制疎開にあったりしてわか町に移ってきた家族が多かったことも今の事態との共通点だ。疎開は敗戦によって程なく解消されたが、放射能による避難は全国各地に向けて今も続いていて、しかも何時になったら元に戻れるのか全く見通しが立っていない。

大震災と原発事故に思う

埼玉県川越市 橋本 弘之

東日本大震災には驚きました。こんなに大きな地震が東北地方の沖合いに発生するとは全く誰も予想できなかったことと、大津波の被害が非常に甚大だったことです。

このような大地震、大津波に日本人はどう対処できるのか、考えてみましたが名案は思いつきませんでした。

現在思いつくことは、地震の予知は難しそうなので、発生した地震や津波を出来る限り早く地域住民に知らせ、早急に高い所へ避難してもらうことです。これも、津波の規模が分からないと難しいかも知れませんが、津波を感知する機器を沖合いに増設するしか方法はないように思います。

又大震災を受けた方々に対する支援は国を挙げて早急に行うべきであり、この点については政府の施策は実行が遅いし、支援も不十分だと感じています。我々自身が被災したと思って親身に支援すべきと思います。

次に、福島第一原発事故についてですが、私は今まで原発が損傷すると、後処理がこんなに大変だと思っていませんでした。

今の段階では、この原発から放射能が出るのを完全に防げる時期の見通しがついていないと感じています。まず、福島第一原発の放射能を無くすることに、東電と政府は結束して尽力すべきだと思います。同時に原発を今後も使い、又、増設するのかどうか、国民全体で議論すべきだと思います。私の意見としては、原発なしでは電力が大幅に不足するとしても、原発はもう使わないようにすべきだと考えます。

国民の生活はかなり不便になり国民経済はかなり打撃を受けるとは思いますが、このことに耐えて、自然エネルギーによる発電の研究、努力する方が、今後の日本のためには良いと思うのです。

なお、東日本大震災と福島第一原発事故は、共に憲法九条とはあまりかわりがないと思います。

原発事故について

千葉県浦安市 持永 龍一郎

自然は複雑で予測は出来ない

東日本大震災は全く予想もされていなかった歴史に残る大地震であり、津波の大きさはただそのすさまじさに驚くほかは無い。そしてこれに福島原発の事故が重なった。毎日の報道は三ヶ月経った今も深刻さに変わりはない。

若し仮に、これが震災だけで原発事故が無いとすれば、又いくらか肩の荷は軽くなっていたのでないだろうか。地震はどうしてもない天災だとしても、原発事故は明らかに人災である。週刊朝日に「原発全廃」でも、電力不測は起きないという記事を見た。これによると、現在必要とされる最大電力は約 1.7 億 kW である。これに対し火力発電が 1.7 億 kW 水力発電が 0.6 億 kW で両者を合わせると優に必要な電力は供給されることが可能であるという。ただ、火力は今後の燃料の供給が限られ、費用も高む。これに対し、原子力は一旦建設すると燃料を必要とせず、発電コストは安いというのが、開発の最大の利点であるという。しかし、今回のように、一旦故障すればその復旧費用は莫大なものとなり、コスト面での優位性は無くなっていく。供給の廉価性を強調するには、今後は故障しないという保障が最大の課題となってくる。となると、現代科学は地震や原子炉の破損や崩壊は予測できるのかという疑問が生じてくる。

結論を先に言うと、自然は複雑であり、連続性を前提とする現代科学では予測はできないというのが、また現代科学の結論である。私は土質工学という科学を用いて、高速道路における地盤の沈下の予測に務めてきた。しかし、計算された沈下量と実測された沈下量が合致しないという現象に終始悩まされ、自己の学力の乏しさを嘆いてきた。ところで、全国 6000 km の高速道路を建設し終えた時点で、測定された約 700 点の沈下量について、計算をやり直してみた。得られたのは 1m と予測したに 50 cm で終わった所もあれば、2m 沈下した所もある。50 cm の範囲内で計算値と実測値が合致したのは三分の一に過ぎないという驚くべき結果である。

試験室内のある拘束された条件の中での結論を、いろいろな条件の重なる自然に適用することは不可能であるということを実感した。現代科学ではカオスという複雑性を示す現象が認識され、コンピューターによって我々素人でもこの現象を実感することができるようになった。なぜ雨が降り、雪が降るかという科学は判っていても気圧の変化など複雑な条件が重なると天気予報は当てにならないことは、毎日、実感しているところである。

このような予測のつかない自然に対して、原発反対を



南三陸町役場

唱えるのは簡単である。しかし、人間が生きていくのに経済をはじめとするいろいろな社会現条件もまた重要な生きていくための課題である。

今後、どのようなエネルギーに頼るのか、太陽光、風力、潮力いろいろな自然力にどのように対応していくのかが、問われている。新しいエネルギーが開発されるが、これはまた同時に予断を許さない新しい課題が発生することを示唆する。しかし、予測できないと判っていても、更なる新しい科学によって現状を克服せざるを得ないというのが、人の世のあり方であるのは確かである。とりあえず原発は廃止して新しいエネルギーを追及するというのがこれからの時代であろう。

フツの人の責任

埼玉県鳩ヶ谷市 森 克彦

『あてになる国のつくり方』(井上ひさし著)という本に次のようなくだりがある。

・・・太平洋戦争では、当時の東条英機首相や陸軍のお偉方など一部のフツの人は踊らされていた・・・という筋書きがあります。しかし、そのフツの人には何の責任もなかったのか、何も知らずに踊らされていたという人に関して自分がほかのだれかを踊らせたことに気づかない・・・

3.11 東日本大震災は甚大な被害と長期に亘る苦難を日本国民に強いることとなった。少なくとも私にとって 60 有余年の人生の中で最悪の事件に遭遇したとの思いである。とりわけ原発事故については、まだ収束に向かっていないし、関東に住む私はある日突然被爆者の一人となる可能性が高い(もうなっているかも知れない)のである。

なぜ? どうしてこんなひどいことになってしまったんだ!

「原発事故は人災である。火山・地震・災害列島と言われる狭い日本に 50 基以上もの原発を作ったのは誰だ。意図的に安全神話を流し続けた自民党・東電・マスメデ

6面に続く --

「IAをはじめとする原発利権集団の罪ではないか」という筋書きは多分正しいと思う。しかし、しかしである。その安全神話を聞き流し、CO2削減に効果的だと信じていたフツーの人には全く責任はなかったのだろうか。実は昨年5月26日の衆議院経済産業委員会において、吉井英勝議員（共）が全電源喪失によるメルトダウンの危険性を指摘していたことを私は、最近始めて知りました。

福島で避難生活をしているある老婦人のはなしを音楽家の山田千秋さん（日本フィル）が伝えてくれました。

「自分は広島で被爆しました。今回又原発事故の放射能汚染で苦しめられている。戦争で日本は核の廃絶を誓ったのに、自ら放射能汚染を拓げるなんて・・・」と呟っていたそうです。「核の平和利用」の美名のもとに安全を二の次とした核の商業利用を進めて来た国策の結果である。そして、このような流れを許したのは今を生きている私たちフツーの人達多数の意思ではなかったのか。

繰り返しますが今回の事故は国策による人災なのです。このことをはっきりしておかない限り、日本の再生はあり得ないと考えます。ドイツやイタリアはこのタイミングで率先して脱原発を決断しました。

日本は第二次世界大戦で300万人もの国民の命を犠牲にし2000万人以上のアジアの人々の命と財産を奪ったことを率直に反省し戦争の放棄を謳った憲法9条を世界に宣言したのです。今また日本は原発事故による放射能汚染で日本国民だけに止まらず、アジア更に地球全体に取り返しのつかない被害を及ぼす原因者となろうとしています。

はっきりしていることは

『原発を進めるのも人間だし、原発を止められるのも人間』だと云うことです。

フツーの人の自覚と責任がいま問われている。



釜石市

「日本人と大震災」 是非の思い

埼玉県春日部市 山本 武夫

東日本大震災被災者の方々(全国民)にお見舞いを申し上げます。今、厳冬を迎え撃つ話をしないといけないうちに、盆までの仮設住宅を「間に合わせる。」「間に合わない。」「入居する。入居できない。入居しない。」という話をマスコミでしています。「遅い。」気が狂いそうに悔しい。日本人は何回も災害にあい対応して来た。いつも同じ失敗を繰り返している。しかし日本のマスコミは、「日本人が困っている現況の報道」が好きみたい。日本人も「困っている報道」が好きみたい。残念ですが現状は是としましょう。以下非です。

1 マスコミの危機管理の研鑽不足

今回震災対処の一番の非はマスコミの危機管理時の報道のあり方に対する勉強不足、実力不足です。常時と変わっていない。三文新聞並みの面白おかしいお涙頂戴の話に飛びつき、被災された方の立場での情報提供、本来あるべき危機対処と実際という報道ができていません。（例えばこの地区の支援状況はどうあるべきで、何処で停まっているのか。避難所に泊り込んで何も無い状況で長期間生活した記事が見られません。全て安易な聞き取り報道です。被災者の立場の情報は一般の方には面白くないので、編集会議で没になっているのでしょうか。「こんな面白くない、世の人が読みもしない記事を書けるのか！」と上から恫喝されているのでしょうか。我々にも経験があります。「良い物を作りましょう。」「それが金になるのか！考え直せ。」です。世のため、人のため、自分の誇りのために生きようという原点がないのです。現状のマスコミの姿勢は日本の戦争中の報道を思わせます。「勝った」という報道の裏で、現地では飢餓に負けていました。今回も変わっていないという思いで、苦々しい限りです。記事源が政府発表しか無く不足しているのです。多分10年後の反省に、マスコミが又、正義の側に立って気取って今のマスコミを非難するでしょう。現状を伝え切れず、世論をリードできなかったマスコミの罪が一番です。現状を伝え、世論をリードするには日頃よりいざと言うときの研鑽を行い理論を作っておかなければできません。それがマスコミに無いということです。

この他、非として「指導者が矮小(中国をリーダに)」「土木学会(道を作れ。ドバカ学会といわれても仕方が無い。)」「東北の魚を食べよう。(誰が食べるか)」「復興構想(実現できないことをいうな)」など色々考えますが、メモをしておきます。自分にとって二度とない貴重な経験でした。

原発事故を巡る主な出来事

3月11日、東日本大震災発生

- 3月11日、福島第一原発全電源喪失、半径3^{km}以内の住民に退避指示。12日、半径20^{km}以内に拡大。
- 3月12日、一号機で水素爆発。続いて3月14日、3号機で水素爆発
- 3月14日、東電が計画停電実施
- 3月15日、4号機で火災、2号機の圧力抑制プールで爆発音
- 3月15日、半径20^{km}～30^{km}の範囲について屋外退避を指示。
- 3月17日、3号機へ自衛隊がヘリ放水
- 3月17日、政府が食料に含まれる放射性物質の暫定基準値発表
- 3月19日、福島県内の原乳などから規制値以上の放射性物質検出
- 3月21日、政府が福島など4県のハウレンソウなどの出荷停止を指示
- 3月21日、半径20^{km}以内を22日0時より警戒区域に指定
- 3月23日、東京都が水道水から幼児の飲用規制値以上の放射性ヨウ素を検出
- 3月24日、昨年5月26日の衆院で共産党の吉井議員の質問に対して、大規模地震などで電源が失われた場合、「炉心融解につながる」と回答、今回の惨事は想定されていたと報道(東京)
- 3月24日、3号機のタービン建屋で作業員2名が放射性汚染水で局所被爆
- 3月27日、大津波を伴う巨大地震について、09年の経産省の審議会で、約1100年前に起きた地震(貞観地震)の解析から再来の可能性を指摘と報道(毎日)
- 3月28日、原発敷地内でプルトニウム検出
- 3月30日、東電会長が1～4号機の廃炉を表明
- 4月2日、2号機の取水口近くの穴から高濃度の放射性汚染水の海への流出を発見
- 4月4日、原子力安全基盤機構が昨年10月、福島2、3号機型原発は、電源が失われ冷却できないと約3時間半で原子炉圧力容器が破損するという研究結果が報告されていたと報道(読売)
- 4月4日、5、6号機などの低レベル放射性汚染水を海に放出
- 4月12日、政府は国際評価尺度(INES)で、レベル7に相当すると発表
- 4月15日、元福島県議の伊東達也氏(共産)が2002年に土木学会がまとめた「原子力発電所の津波評価技術」などを元に津波による水没や引き潮で海水が取り入れできなくなることを指摘し、2003年より再三改善を申し入れていたと報道(東京)
- 4月17日、東電が冷温停止まで6～9ヶ月との工程表を発表
- 4月29日、小佐古東大教授が政府の対応を批判して内閣官房参与を辞任
- 5月6日、首相が中部電力浜岡原発の運転停止を要請(14日停止)
- 5月12日、東電は地震から16時間後には1号機がメルトダウンとの解析発表。24日、2、3号機のメルトダウンを示す解析結果を公表。1、2号機の格納容器に穴が開いた可能性も指摘
- 5月15日、福島県飯館村、川俣町の計画避難が開始
- 5月27日、日弁連は東京都内で定期総会を開き、原子力発電所の新增設の停止や、既存の原発の段階的廃止を求める宣言を採択。
- 6月3日、福島県がいわき市沖の海底の土から通常の約2000倍を超える放射性セシウムを検出と発表
- 6月6日、ドイツ政府は22年までに国内にある原発17基全てを全廃の原子力法改正案を決定
- 6月12、13日、イタリアの国民投票(投票率54.79%)で原発復活反対が94%と圧倒的多数
- 6月10～12日、NHK電話世論調査で原発を「廃止すべき」「減らすべき」が65%
- 6月11、12日、朝日電話世論調査で原発利用に「反対」が42%、「賛成」の37%を初めて上回る
- 6月11、12日、日本世論調査会(東京新聞などが加盟)の調査で、「直ちに全て廃炉」9.4%、「定期検査に入ったものから廃炉」18.7%、「電力需要に応じて廃炉」53.7%と合わせて82%と「現状維持」14%を大きく上回る
- 6月18日、政府は全国の原発について、重大事故に対する対策が確認できたと発表
- 6月25日、東京電力は福島第1原発(福島県大熊町、双葉町)沖合2カ所の海底土から事故に伴って放出された放射性物質のストロンチウム89と同90が検出されたと発表
- 6月28日、東電の株式総会。脱原発の議案に過去最高の8%の賛成(これまでは5%程度)
- 6月30日現在、避難者99,236人。7月1日現在、大震災による死者15,520名、不明者7,173名
- 7月2日、「原発ゼロ」を目指す、集会在明治公園で開かれ2万人以上の人参加
- 7月4日、岸本玄海町長は定期検査停止中の玄海原発の運転再開に同意
- 7月6日、海江田経産相は全原発の安全検査実施を表明。7日、玄海町長運転再開を撤回





岩手県宮古市

最近の主な出来事

5月18日、参院本会議は、改憲手続法に基づき改憲原案の審査権限を持つ憲法審査会の規定を可決した。
5月19日、オバマ米大統領は国務省で、「イスラエルとパレスチナ国家の国境線について、1967年の第3次中東戦争でイスラエルが占領地を拡大する前の境界線に基づき決めるべきだ」と演説。
5月30日、民主・自民などの改憲派議員は、改憲を発議する要件を衆参議員の2/3から「過半数」に緩和する「憲法96条改正原案」の賛同署名の開始が明らかに。
6月3日、「大阪維新の会」は府議会本会議で「君が代」規律強制条例を強行可決
6月7日、民主・自民など超党派の改憲派議員約100が、「憲法96条改正を目指す議員連盟」の設立総会を開催
6月13日、ベトナム海軍は同国沖の南シナ海で実弾を使った軍事演習を実施した。領有権を巡り対立する中国を刺激するのは必至
6月21日、日米の外交軍事閣僚からなる日米安全保障協議会(2+2)は、沖縄・辺野古に普天間基地に代わる字形滑走路の新基地を建設すると正式合意
7月2日、防衛省は西之表市の馬毛島に陸海空自の拠点施設を設置することを明らかにした

編集後記

今号は、憲法九条に直接の関係がないので、会として取り組んでも良いのだろうかとの声もありましたが、多くの人々に多大な影響を与えている大震災について、皆様のご意見を率直にお聞きしたいと思い震災特集を組みました。多くの方から投稿をいただき大変ありがとうございました。

雪が舞い、寒さに震えた被災者の姿から、既に4ヶ月が過ぎ、熱中症が心配となった現在、いまだに避難所暮らしの方が約10万人にのぼります。さらに、放射線量が部分的に高い特定避難勧奨地点により、新たに避難をされる人が出るなど、被害は拡大しています。

この間、原発事故に関して、新聞・テレビを通じて次から次へと疑問が出てきました。

まず、被爆量とその人体への影響についてです。チェルノブイリの例などがあるのですが、それと政府の言う基準は整合しているのでしょうか。次に水や食品に含まれる放射能とその人体への影響についても、低線量被爆の危険性が報道されるなど、政府の暫定基準がにわかには信じられません。何が正しいのでしょうか・・・。

また、原発事故の原因について、東電は津波が全ての原因のように言っていますが、津波到来の前、地震直後より原子炉は異常値を示していたといいます、原子炉がいくら頑丈でも、複雑に張り巡らされたパイプや原子炉を動かす外部送電設備など、全てが地震に耐えたなんて信じる方が無理ではないでしょうか。

次に、原子炉の耐用年数について、30年程度を想定していたようですが、既に40年を超えた原子炉もありません。長期運転は金属疲労と中性子による劣化(脆性遷移温度の上昇)を招くといいます。欧米ではとくに廃炉となるのに、日本では廃炉の話は聞かない。次の事故がおきてから、また「想定外」とでもいうつもりでしょうか。

冗談ではありません、ひとたび事故がおきれば幾つもの町や村が無くなってしまいうる原発に「想定外」などゆるされません。

今こそ、活断層の上や地震想定域に位置する原発、及び、古くなった原発から廃炉にし、自然エネルギーを目指すべきではないでしょうか。

最後に、震災復旧はこれから本格化します。引き続き震災に関する意見や今回の特集に対するご意見を、お寄せいただきたいと思います。

会の活動費の大部分は、「会報」の発行・送料に使われています。金額の大小を問わず協賛金にご協力をお願いします。

協賛金振込口座 ちば興業銀行 佐原(さわら)支店・(店番号820)

口座名義 西岡幸雄(ニシオカユキオ) 口座番号 普通預金 1016510